町の話題

新しい地方農業

南関町では、新しい農村産業として、昨年から缶詰工場が操業を開始しているが、役場でも低位所得作物の転換作物として、加工用作物の増産普及につとめ、すでに三十二㌶の加工用グリンピース二十万キロ、約五十アールのマッシュ・ルーム七千二百キロを工場へ出荷している。

このほか、クリ、モモ、ミカンなどの増植も計画しており、町の農業振興に明るい光をなげかけている。

（南関町経済課　北里技師）

〈南関町のグリンピース畠〉

話し合い活動

いま一つの南関町の話題は、公民館活動の一つとして、例年話しあいの会を開いていること。

集まる人は公民館運営審議委員、区長、青年団婦人会代表総数二百名。いわば指導的立場にある人たち。話しあいの持ち方資料の持ちより、知識の移入というのが主なネライ。

さき頃の会では農業経営、青年の離村、道路、土木事業の分科会にわかれて研究討議を活発に行つた。特にわが町は県の北部にあつて、大牟田、荒尾の工業都市をひかえた町だけに話し合いには新鮮な意欲が感じられる。（南関町公民館福山主事）

建築ブーム

レジャーブーム、観光ブームに乗つて、いま阿蘇町内牧の黒川河畔は、豪華建築の花ざかりである。

個人経営の旅館が増築すれば一方では町経営の国際観光ホテルは、本年度三千万円を投じて今ブロックが積み重ねられているし、河向うの九州電力の保養所も、経費五千万円で工事進捗中である。これ等が完成したら大阿蘇の偉容に一だんの景観を添えるであろう。

花嫁衣裳貸します

宇宙時代の昨今に結婚貸衣裳とは時代おくれの感もあるが、一生一代のこと、振り袖や、うちかけを、そして日本人ならぬ人の髪の毛で作つたといわれるカツラをかぶらせ、厚化粧をして化けさせなければ、結婚式ではないように考えていられるオバアチャン、お母さんのいられる現実。

一金壱万円もがフイになる業者から借りるのではと、町で振り袖の花嫁衣裳一式三組と、洋装一組をこの程購入してお貸しすることになつた。

その借料僅か千五百円。しかも五百円は美容師の謝礼、五百円は町婦人会、残りの五百円は利用された地区の婦人会へ、運営費として出そうというのだから、吉祥吉日には申込み殺到。三組でも足りないという盛況である。

（阿蘇町公民館　井沢主事）

知事さん今日は！

知事さんは天草地区巡視の一環として四月十四日、久しく待ち望んでいた私たちの竜ケ岳町を訪れました。

わが町自慢の福祉三法の名誉にかけてもと、町民あげての町かどや道路の美化作業。「昔の殿様時代でもあるまいに」という外部の声はあつたが、私たち一万町民の歓迎はもつと素直で、春の海のような和やかさ。

上陸された知事さんは、まず沿道をうずめつくした町の人々ににこやかな挨拶。

そのあと県道開通式では知事さん自から五色のテープにハサミを入れられた。感激的な一瞬みんなの喜びは爆発し、お祝いの餅なげでは、知事さんが投げられる餅をキャッチしようとてんやわんやの大混乱。

そのあと、知事さんは新装なつた青年研修所で集つた町の若者たちに一席講話され「みんな実に眼がキレイだ」とおほめの言葉。若者たちは一寸テレ気味だつたが、「眼も心もキレイになろう」と目下、学習に拍車をかけている。

以上断片的なレポートに終つたが、知事さんの訪問は確かにわが町にとつて一新らしい波一だつたと専らの評判。

（竜ケ岳町公民館松江主事）

村長さんの伝記

津奈木村長斉藤藤吾氏が死亡されてから、津奈木村は、かじを失つた舟のように途方にくれている。

村長さんは、昭和二十二年までの三期と、昭和三十年から今日まで六年間を合せて十八年間村につくした功績はまことに大きい。

人は死んではじめてその人のことがわかるというが、全くそのとおり。

津奈木村の全戸数は千六百に近い。それに弔問者がなんと二千三百人もあつたという。

全戸もれなく弔問した上にさらに村外七百という数字。ことわざに「外に出たら七人の敵」というが、村長さんには「七人の友」である。

だから、公民館審議員の一人が、「村長さんの伝記を作つたら」といい出したら、たちまちまとまり、第一回の委員会でへんさんの大綱がきまり、近く第二回目で執筆の分担が定められることになつている。

（津奈木村公民館岡松主事）

あのひとこのひと

〈写真は倉岡さん〉

倉岡竜雄さん

農業経営コンクール一位に入賞した

「豊秋酪農組合」の代表者

十六才のとき"大陸雄飛"を夢みて満洲に渡つた倉岡少年は昭和二十二年敗戦服をまとつて故郷の御船町豊秋に呆然たたずんでいた。現地召集、シベリア抑留という悲痛な道程の涯のことである。

■

実家に帰つてみると、長男は戦死、次男だつた竜雄さんはいやでも家業の農業をつぐことになつた。第二の人生の出発である。水田九十四アール、畑三十三アール、これが倉岡さんの活躍の土俵であつた。

■

米麦と養蚕という昔ながらの農業経営をなんとか改善できないものか、倉岡さんは早速そ菜をやつたが失敗。そうだ、酪農は楽農に通じるかもしれない—家族の猛反対を押し切つて二十四年に乳牛一頭を導入した。

二十五年には米代金を前借してさらに一頭、二十六年には、"二頭さく乳"までこぎつけ、三十二年頃から飼育やむづかしい種つけにもどうやら自信がつき養蚕をやめた。

■

現在仔牛三頭、成牛三頭計六頭を飼うほどになつている。飼料は水田裏作。初期のこと、緑川べりにつないでいた牛が川にすべり落ちて死んだときは泣くにも泣けなかつたという。

これまでの米養蚕経営に酪農を入れ米酪農を軌道にのせた。同志的結合、経営飼養技術まで共同化し…「第一回熊本県農業経営コンクール」一位入賞の栄冠を獲得した「豊秋酪農組合」の代表者が、倉岡竜雄さんである。メンバーは本田誠一、本田政久、西橋文男、本田司、本田幸夫、本田鶴雄、民長孝夫、浦田政敏、西橋久男、倉岡真市本田春行さんらの十二人。組合には仔成牛あわせて四十一頭いる。目標を一戸当り四頭さく乳として、こと一～二年内には実現するとハリ切つている。

■

いま組合では六八〇㌔（三・八石）から七二〇㌔（四石）の乳をしぼつているが、毎朝しぼつた牛乳は豊秋酪農組合—益城酪農連合会—熊本乳牛協組を通じて家庭へ。

ともあれ、乳牛一頭の価格が大体十五万円というから四〇アールの地価に相当する。乳牛一頭の収入が米作三〇アールを上回るそうで乳牛四頭で一、二ヘクタールの収入という計算だ。四頭飼うのに労力は一人か二人でいいと倉岡さんは力説する。

■

どうやら酪農は"楽農"へのコースだつたようだ。

この春の花見には婦人部の牛乳の手料理で祝賀会をやつたという。倉岡さんは三十九才、母妻、子供二人の五人家族。

（広報課）

なんでも相談室

耕うん機にも運転免許がいるか？

問　耕うん機を運転して道路を通行する場合、運転免許はいりますか？

答　いる場合といらない場合があります。すなわち、エンジンをかけても、あなたが歩いて操縦していく場合はいりません。

ところが、耕うん機に乗つて運転していく場合はいります。大体「軽自動車」以上の免許があればよいのです。

問　免許試験の手続きは？

答　あなたの地区の警察署で申請書を呉れますから、これに住民票抄本、免許用写真二枚、手数料四百円を添えて出せば、あとで試験の日時と場所を指定した通知書がきます。

問　試験はむづかしいですか？

答　視力・聴力・身体の運動能力の検査は普通の人なら誰でもパスします。

それから道路交通法令の筆記試験と運転技術の試験ですが、これも七〇点以上とれば合格です。

（県警本部）